

[002] 生活体験学習研究表紙奥付等

<https://hdl.handle.net/2324/8991>

出版情報：生活体験学習研究. 2, 2002-07-31. 日本生活体験学習学会
バージョン：
権利関係：

科学研究費による研究プロジェクト 「子どもの心と体の主体的発達を促進 する生活体験学習プログラム開発に 関する研究」について

1. 研究の目的と内容について

平成13年度から15年度にかけて、標記の研究プロジェクトに対し、文部科学省より科学研究費補助金(通称、科研費)の交付が基盤研究(B)にて認められました。この研究プロジェクトは、生活体験学習の領域や体験学習を実践する環境条件やシステムを明らかにし、子どもの「心と体」の発達のための「体験学習プログラム」開発への実証的研究を行うものであり、内容としては以下の四つの研究を行うことを目的としています。

- (1) 子どもの現代における生活体験学習の基本的領域、内容などの概念の究明
- (2) 子どもの生理的、運動的、社会的身体の発達を促進する生活体験学習のプログラム開発、実験、検証
- (3) 子どもの人間関係や社会関係を踏まえた道徳・倫理形成を促進する生活体験学習のプログラム開発
- (4) 生活体験学習を展開する社会システムの研究

2. 研究プロジェクトの組織構成と学際性

この研究プロジェクトのメンバー構成は、日本生活体験学習学会所属の会員の研究者を中心に14名で組織され(表1)、子どもの「心と体」の主体的発達を研究対象とするため、メンバーには教育学や心理学関係者だけでなく、栄養学や精神医学、スポーツや健康などの研究者もおり、学際的な組織構成となっています。

また、この研究プロジェクトは四つの部会から構成されています。①生活体験の原理歴史検討部会、②生活体験学習の国際比較研究部会、③乳幼児期の生活体験プログラム開発研究部会、④少年期の生活体験プログラム開発部会、の4部会です。

表1 研究メンバー構成表

| 研究者氏名 | 所属機関 | 現在の専門 |
|--------------|---------------------|----------------|
| 南里悦史 (代表) | 九州大学大学院人間環境学 研究院 | 生涯学習・ 社会教育学 |
| 猪山勝利 | 長崎大学教育学部 | 生涯学習・ 社会教育学 |
| 平田宗史 | 福岡教育大学教育学部 | 日本教育史 |
| 横山正幸 | 福岡教育大学教育学部 | 発達心理学 |
| 碓 浩一 | 碓精神医学研究所 | 精神医学 |
| 森山沾一 | 福岡県立大学人間社会学部 | 社会教育学 |
| 小松啓子 | 福岡県立大学人間社会学部 | 栄養学 |
| 山崎清男 | 大分大学教育福祉科学部 | 教育経営学 |
| 小原達朗 | 長崎大学教育学部 | 健康教育学 |
| 井上弘人 | 熊本学園大学経済学部 | スポーツ社会学 |
| 古賀倫嗣 | 熊本大学教育学部 | 地域社会学 |
| 上野景三 | 佐賀大学文化教育学部 | 社会教育学 |
| 井上豊久 | 福岡教育大学教育学部 | 生涯教育学 |
| 玉井康之 | 北海道教育大学教育学部 | 社会教育学 ・教育学 |

3. 2002年3月現在の研究プロジェクトの進捗状況

2002年3月までに、全体での会合を4回、部会では個別の会合を数回ずつ行っています。

① 生活体験の原理歴史研究部会

この部会では、プログラム開発の基礎枠組みをとらえるために「生活体験」の概念について検討を行っています。特に、これまでの先行研究から「生活体験」の原理論を歴史的蓄積からの探究、子どもの育ちや発達の変化から学習と生活の関連の分析、現代の社会構造における生活として消費型生活と「ものづくり」体験の意義についての検討、現代的生活の規定、子どもの生活構造についての検討などを行っています。

② 生活体験学習の国際比較研究部会

この部会では、社会構造と生活体験の関連、教育政

策としての生活体験学習、子どもの日常生活と階層などをとらえ、日本との国際比較を行うために、イギリス調査を2002年1月に11日間にわたって行いました。成果については調査報告書を作成し、第3回研究大会において報告を行いました。

③ 乳幼児期の生活体験プログラム開発研究部会

この部会では、先駆的に生活体験学習を行っている保育園での生活プログラムに着目し、まずは保育園調査を行うこととしました。特に子どもの体の発達という側面から、体温や子どもの活動状況などの調査、および、就寝・起床・食事・遊びなど家庭での生活に関するアンケート調査を行い、生活体験学習プログラムの在り方について検討します。

④ 少年期の生活体験プログラム開発研究部会

この部会では、現代「少年期」の発達段階論をとらえ、学校価値や消費生活を超越する主体的な総合的「生きる」構造、主体的・協同的な「作る」生活の参画にむけた生活体験学習プログラムの開発を行います。そのために、まずは各地で行われている通学合宿や生活体験学習プログラムについてのデータを収集し、体験したことが発展しているか、改めて総合的に生活体験学習の中身の分析を行います。

さらに、研究分担者が関連する地域において（北海道、東京、福岡、大分、沖縄、長崎）子どもの生活体験と地域伝統行事との相関を調査したり、子どもの生活習慣と身体の発達に関する調査を大規模に行う予定です。